



市民の生活に不可欠である豊富で良質な地下水は観光資源としても活用されている

case
3

大野市(福井県)

郷土の湧水文化を再生する

地域一丸となった地下水保全活動

地形や気候などの自然環境に恵まれた福井県大野市は水資源が豊かな地域です。古くは城下町として栄え、各所に湧き出る豊富な湧水を上手に利用し人々の生活は成り立っていました。それが高度経済成長を期に、多くの家庭で井戸枯れを経験したことから、市民は真剣に地下水保全に取り組みはじめます。

行政による水の循環を維持するための環境整備等、市民や事業所による節水行動、未来を担うこどもたちへの水保全教育など、それぞれができることを実践していくことで、地域社会全体が地下水を豊かにし、越前おおのの特有の湧水文化を再生する、という一つの目標へむかって進み始めたのです。この行政と市民が協力しあって進める活動が大野のまち全体を盛り上げています。



これまでの取組

1971年頃 井戸枯れ発生

1973

「大野市地下水対策審議会」設置

1977.11

「大野市地下水保全条例」制定

1980頃 湧水復活傾向

2000.12

「地下水保全基金」設立

2001～2002

「大野市地下水総合調査」実施

2006.1

「大野市地下水保全管理計画」策定

2011.10

「越前おおの湧水文化再生計画」策定

2012.2

湧水文化再生推進連絡協議会発足

2012頃 地下水位上昇傾向

2012

「大野市森・水管理条例」制定

2013.4

第15回日本水大賞環境大臣賞受賞

2015.5

Carrying Water Projectスタート

2017.1

流域水循環計画に認定

豊富な湧水、清らかな地下水のまち

越前おおの

山々に囲まれた大野盆地は古くから湧水が豊富で良質な地下水に恵まれた地域でした。年間降水量は全国平均を大きく上回り、そのうちの3分の2は地域内を流れる河川に流出し、その一部が地中に浸透して地下水となり人々の暮らしを支えてきました。

約440年前につくられた城下町の時代より、市民の地域共有財産として様々な用途に利用される地下水は、現在も多くの家庭でホームポンプを使って汲み上げられ、飲料水や生活用水としてそのまま利用されています。また、農業や工業、水を利用した食品加工業などにも利用され、水と共生する生活様式が越前おおの特有の湧水文化を創り出し、地域を発展させてきました。

しかし、環境変化や時代とともに、井戸の枯渇をはじめとして、古くから受け継がれてきた湧水文化の継続が困難な状況になりはじめます。そこで地域一丸となって地下水のメカニズムの調査や、河川やダムとの管理・整備などにも積極的に取り組み、個々で活動するのではなく、地域社

会で役割分担を行い、地下水保全活動を通じた地域づくりをスタートすることに なります。

さまざまな角度からの再生活動

湧水再生においては、市民一人一人が地域特有の水循環を理解し、限りある資源とその保全対策を国・県・市などの行政や企業、団体などと協力・連携し具体的・積極的に行動していかなければなりません。

地下水保全へのハード施策として、真名川での自然出水再現放流や河岸形状再生などによる河川環境の改善や水田湛水等で地下水流入量を増やし、また、節水に向けた量水器や節水器の導入、消雪に地下水を利用しないよう市民の行動徹底を促すことで地下水流出量の減少を実現しています。

一方では、ソフト施策として、水の循環講座「スイスイ課外授業」などの市民向け講座を年に複数回開催。地域住民の意識啓発の場となっています。また、地域活動を指導するリーダーの育成や地下水や湧水に関する情報発信等行うことで市民の地下水への関心を深め、節水や保全への意識啓発を強化しています。

名水百選に選定された「御清水」や

イトヨが生息する「本願清水」などの湧水地を貴重な地域資源とし観光地としてアピールするなど、地下水保全活動の機運の醸成に向けたまちおこし活動も進んでいます。



水の循環講座スイスイ課外授業

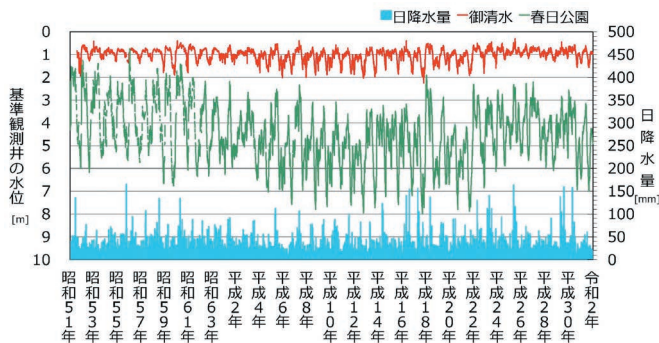


天然記念物のいとよ生息地・本願清水

流域マネジメント、ここが「鍵」

「鍵」その1 大野市地下水保全条例の制定

古くから地下水を生活用水や農業用水、工業用水として利用してきた大野市ですが、1970年代に入ると市街地での井戸枯れや湧水の枯渇を経験するようになりました。そのため1973年、地下水を保全するために地下水対策審議会が設置され、1976年には市民の手による地下水観測が開始されました。翌年には市民の生活用水を確保することを目的として全国でも2番目となる地下水保全条例が制定されています。



地下水位の経年変化(1976年～2020年)



地下水注意報発令中(春日公園観測井)

「鍵」その2 地下水保全のために基金を設立

大野市は地下水保全事業の活性化を図るため、2000年に大野市地下水保全基金を設置し、市民や市内の団体が行う地下水保全に関する啓発活動、調査研究事業、地下水の合理的利用のための施設整備などへの助成や地下水かん養事業、かん養源(森林)の保全活動等に活用しています。基金は趣旨に賛同した企業や団体からの寄付金を原資としており、設立時にはニチコン株式会社より1000万円の寄付を受け、その後も毎年100万円の寄付を受けています。基金への寄付は、2020年度は22件、総額約170万円となっています。



自然環境保全を目的に大野市が購入したブナ林

これまでの寄付総額は約4千3万円に達し、寄付者や基金の残高、活用事例は広報誌や大野市地下水年次報告書に詳細が記載されています。また地下水保全の取組としてブナ林保護を目的とした「森づくりの基金」では、銀行等から寄付を受け、森づくり団体の運営費として活用しています。

大野市農業林業振興課が中心で行う「みんなで森づくり事業」では、地下水のかん養地である森を守るための活動が市民により実施されており、年間7～8団体、各十万円の補助を出し、山道の整備やブナ林への植樹による水源かん養機能の維持を図っています。

「鍵」その3 地下水のかん養対策としての
水田湛水事業

大野市では、市街地における冬期間の地下水位低下を緩和することを目的として、1978年から現在に至るまで、毎年10月から2月までの非かんがい期において約30ヘクタールの水田湛水を実施しています。

水田に張られた水は重要な地下水のかん養源であり、湛水した水田は、雑草の抑草効果が期待できるほか、サギなどの鳥類、メダカなどの魚類、カエルなどの両生類、トンボなどの昆虫類など、さまざまな生き物の採餌や繁殖の場となるため、豊かな生態系保全にもつながっています。



11月頃の水田湛水状況



1月頃の水田湛水状況

「鍵」その4 越前おおのエコフィールド
管理・運営協議会

「越前おおのエコフィールド管理・運営協議会」は大野市内を中心とした約30事業所・団体で組織されており、森づくりの活動を実施しています。市内の小学生に毎年どんぐりから苗木を育ててもらい、育った苗木を山に植樹します。2003年に大野市が自然環境の保全と市民の憩いの場として活用することを目的として購入した約3万平米の広場「どんぐりグリーン広場」は、苗木の育成や自然体験・観察等の森林環境プログラムの実施、交流・憩いの場として利



越前おおのエコフィールドでのどんぐりの植付け

用されています。また2009年には大野市の農林業の発展と地域社会経済の活性化のために、一般財団法人越前おおの農林楽舎が設立され環境保全の啓発活動を行っています。

活動の
効果

かつての姿を取り
戻した湧水

しばらく枯れていた湧水も、市民のボランティアが取り組む年数回の清掃活動をはじめとした保全活動の継続により、みごとに復活を遂げました。

きれいな冷たい湧き水でしか生息



ボランティアによる湧水清掃

できない「イトヨ」。おおのを代表する湧水、本願清水は淡水型イトヨ生息地の南限として、国の天然記念物に指定されています。本願清水に隣接する「イトヨの里」ではイトヨの保護活動を通じて湧水の保全活動も継続しており、2011年には豊かな生態系を証明するかのようになり、カルガモの姿もみられるようになりました。また、水を利用した国内外への情報発信として、各種イベントなどでの積極的な啓発活動の実施や東ティモールへの水資源確保の支援事業などを実施したことにより地方創生活動にもつながっています。



市民の憩いの場ともいえる
「本願清水イトヨの里」